

NEWS LETTER

NEWS LETTER No.43 August. 2013

感謝とご報告 -2012年度事業報告

青少年健康センターは、1985年から、ひきこもりなどの青少年問題に取り組んで参りました。2015年には、創立30周年を迎えようとしております。こうした分野で先駆的に取り組んできた当センターは、これまでに蓄積されたノウハウを生かし、ひきこもりに悩み、またそのご家族たちを支援するために、さらに積極的に取り組んで参ります。最近では若年層の当事者の高齢化、彼らを支える家族の老齢化が深刻な問題となっております。こうした状況を考慮しつつ、社会や家族全体の高齢化に対処しライフプラン講座を展開したこともあります。これも時代の要請でしょうか。とはいえこうした問題への社会や行政の認識や支援はきわめて不十分であり、私どもの運営はきわめて苦しい状況にあります。この機会に改めて、皆様の一層のご支援をお願い申し上げたいと存じます。

こうした中で、昨年は篤志家のたいへんなご厚意により、新事業「クリニック絆」を創設、NHKでも取り上げられ反響を呼びました。感謝をもってここにご報告いたします。

1. 電話相談・面接相談

「クリニック絆」における電話相談、心理臨床の専門家による電話・面接相談などの相談総数は1,800名に達し、相談それ自体がすぐれて援助的な事業であるとともに、居場所や社会参加などの事業につながる成果を挙げています。



NHK「おはよう日本」より

2. ひきこもり・発達障害の若者たちへ居場所提供

「茗荷谷クラブ」におけるいくつかの居場所提供、スポーツ、野外活動、一泊旅行などの活動は日常的に行われており、2012年度における加入者は43名、参加者総数は月間で延べ162名、年間で1,941名に達しています。

3. 社会参加準備・支援、その他サッカー・演劇活動

これは外部との接点・接触を探り、あるいはアウトリーチする試みで、社会参加者準備利用者は延べ119名、サッカー・クラブ参加者が年間延べ556名、演劇ワークショップ参加が年間延べ149名に達しました。



4.

実践的ひきこもり対策講座・交流会

これは家族や親たちのための研修会であり、実質的な相談会でもあります。「ひきこもり」問題の第一人者である斎藤環教授（筑波大学・精神医学）の指導で、筑波大学東京キャンパス（茗荷谷）で月に1回、講義と質疑応答がありますが、毎回盛会ですすでに180回を数えています。親たちだけの交流会もあり、去年はそれぞれ900名近い参加者がありました。



講義する斎藤環教授

5.

思春期カウンセリング講座

青少年健康センターにかかわる専門家たちによる基礎的なカウンセリング講座です。昨年度はパーソナリティ障害、思春期・青年期の発達課題、家族関係援助論などのテーマで講座を実施、出席者は延べ249名でした。

6.

講演会・シンポジウム

2012年に自殺が激減したにもかかわらず、若年層の自殺はむしろ増えています。こうした状況を考慮し、青少年のリストカットなど、いわゆる自傷行為をめぐる斎藤環（上掲）、松本俊彦（国立精神・神経センター・精神科医）、砂谷有里（明治学院大学大学院）ら3人の諸氏から発題講演があり、活発な討議が行われました。



筑波大学東京キャンパスでの集会

7.

チャリティ・コンサート

昨年は久しぶりに青少年健康センターのために合唱団「東京スコラ・カントールム」がご奉仕くださり30万円の収益を全額ご献金いただきました。

「東京スコラ・カントールム」は民間の古典音楽合唱団ですが、プロの音楽家を中核に質の高い合唱音楽をもって社会奉仕をされています。30年近く前、当センター創立のころ多額な寄付金をもって支援してくださいました。あらためて感謝いたします。

**死ぬほど
つらいときに...**

自殺、ひきこもりなど心の危機の時に
03-5319-1760

●電話相談 月曜日～金曜日 13:00～18:00
●専門相談 土曜日 14:00～18:00

※休日に緊急による電話は、24時間受付しております。
※本センターは無料、非営利の公益施設です。お問い合わせは、03-5319-1760
※本センターは、東京都葛飾区にある施設です。

クリニック絆

「クリニック絆」03-5319-1760

ご支援の言葉

高橋 清久 氏

(精神医学者 国立精神・神経センター名誉総長)



青少年健康センター創立者の稲村博氏とは同じ大学で、しかも同じ時期に学んだということもあり、彼が1996年に亡くなるまで親しく付き合いしました。彼の専門は思春期精神医学で、すでに70年代後半から思春期の自殺やひきこもり問題で、相次いで多くの本を書いてわれわれ仲間たちからも注目を集めていました。80年代以降彼は筑波大学、一橋大学で教授として教鞭を執りながら、同センターを創立し、問題を抱えている青少年たちの治療、援助を始めるようになりました。まさに時代の要請を先取りし、先駆的・開拓的に事業を始めていたこととなります。

しかし彼が亡くなった後の経済情勢は厳しいものがあり、同センターの運営もますます困難になっているようです。小生もお手伝いしていますが、さらに幅広い支援をお願いしたいものです。皆さまのご理解をいただければ幸いです。

ご支援のお願い

本事業の目的に賛同し、支援して下さる会員を随時募らせていただいております。

○正会員 年会費 個人 20,000 円/年 ①法人 50,000 円/年 ②法人 30,000 円/年

○維持会員 年会費 個人 10,000 円 また一時の寄付でも結構です。

(会員には当センター企画の講座などに優先的にご案内、割引など優遇いたします)

○寄付金振込先

①郵便振替 (添付用紙ですと振込料は無料です) 00180-6-546682

②みずほ銀行 池袋支店 普通 2837720

02 東京		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号						金額	
00180-6-546682							
加入者名 社団法人 青少年健康センター						料金	
※通 ○正会員 年会費 個人 20,000 円/年 ①法人 50,000 円/年 ②法人 30,000 円/年 ○維持会員 年会費 個人 10,000 円/年 また一時の寄付でも結構です ○書籍注文 (裏面をご覧ください)						備考	
おとこ (郵便番号)						日	
おなまえ						附	
(電話番号)						印	

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号東第54793号)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

00180-6		通常払込 料金加入 者負担	
口座記号番号			
00180-6-546682			
加入者名 社団法人 青少年健康センター			
金額			
おなまえ			
ご依頼人			
日 附 印			
料金			
備考			

この受領証は、大切に保管してください。

出版物のご案内

青少年健康センターの役員・関係者による「ひきこもり」を中心とする出版物が多数あります。お役に立ててくだされば幸いです。

齋藤友紀雄 倉本英彦編著

『思春期挫折とその克服(現代のエスプリ 388号)』
(至文堂 1999年 1190円+送料 390円)

倉本英彦編著

『社会的ひきこもりへの援助・その実態 - 成因 - 対策に関する実証的研究』
(ほんの森出版 2002年 1600円+送料 390円)

齋藤環著

『社会的ひきこもり 終わらない思春期』(PHP新書 1998年、2013年 660円+送料 240円)
『ひきこもりはなぜ「治る」のか?』(中央法規 2007年 1300円+送料 240円)
『ひきこもる心と向き合うには』(DVD, 青少年健康センター 2000円+送料 140円)
『ひきこもり救出マニュアル』(PHP、2002、2012年 2100円+送料 580円)

近藤卓著

『いのちの大切さがわかる子に』(PHP 研究所 2005年 1200円+送料 390円)
『死んだ金魚をトイレに流すな』(集英社 2009年 700円+送料 240円)

田村毅著

『癒しのメーリングリスト』(講談社 2005年 1500円+送料 390円)

松崎一葉著

『会社で心を病むということ』(東洋経済新聞社 2007年 1600円+送料 390円)



*上記の出版物などご希望の方は、郵便局の振替取扱票でご注文下さい

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

ご寄付感謝報告

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および助成団体はじめ会社などの助成金・ご寄付、行政からの補助金などによって支えられています。ここに決算報告と共に、こころから感謝申してご報告上げます。(お名前など間違いがありましたらご通知ください)



正会員

飯森真喜雄	稲村 優子	岩佐 壽夫	井利 由利	上田 順一	江頭 瑞江	大塚 芳子
片岡 方和	叶 香代	河野 治子	菊池 章	日下 忠文	倉本 英彦	倉島 徹
桑山瑠璃子	小松 淳平	近藤 卓	齋藤 英子	齋藤友紀雄	島田 雄二	島田恵都子
関川 俊男	高橋 清久	高山 智	玉置 明子	玉置 正和	田村 毅	柘植 悠子
津田 菊枝	角田 忠之	中島 聡美	能勢 孝子	馬場 謙一	藤光純一郎	真下 テル
松本 寿昭	宮田タマ恵	矢島 知子	米沢 宏			(計 980,000 円)



維持会員

秋葉真知子	糸井 藤子	小鹿 敏夫	伊藤 一資	伊藤 三恵	遠藤幸代子	大塚 慶子
大橋佐和子	國頭暉一郎	黒石美江子	倉島 徹	小島 弘子	小西 光代	小西 香里
鈴木 邦一	関川千恵子	田村 守孝	徳江 逸子	戸村みどり	永井 照子	中村けい子
西村 四郎	二宮 和子	原 佐恵子	藤井 幸子	松山 裕	松本 透	三村 蓉子
粕山 恭子	吉村 有紀	レネ・ダイグナン	渡辺 彰子			(計 750,000 円)



団体助成・献金

公益財団法人 J K A	一般財団法人 日本メイスン財団	東京スコラ・カントールム
匿名篤志家「クリニック絆へ指定献金」	社会福祉法人 大分いのちの電話	(計 10,967,966 円)

2012 年度法人収支計算報告書 (単位:円)

収 入		支 出	
個人会費等収入	1,730,000	講座等経費	2,355,251
補助金・助成金	10,967,966	面接等経費	1,391,644
事業収入(相談関連)	4,724,810	施設関連費	12,964,563
々 (施設入所)	7,609,000	貸貸・事務経費リース料	5,169,761
その他収入	436,630	給与・交通費	4,678,110
財産利息収入等	16,632	会議費	221,178
		機器リース料等	1,343,927
当期経常増減額	△ 2,639,396		
経常収入総計	25,485,038	経常支出計	28,124,434



ご家族・ご本人からの声

青少年健康センターにかかわってくださっているご家族、
ご本人からたくさんの“声”をいただきます。
そうした“声”の一部をご紹介します。

- ◆「斎藤環先生の講座を知り、すぐる思いで夫と講座に参加しました。目からうろこが取れるというのはこういうことでしょうか。まず息子の問題は自分たちの問題であることを教えられ、しかも同じ問題を抱えておられる大勢の親たちが出席されているのを見て、自分の家庭だけではないのだと安心もしました。」
- ◆「僕は茗荷谷クラブに通っています。クラブは年単位で考えて入ると落ちついて生活できると思います。クラブに来れば分かることですが、とにかく安心できるのです。それはスタッフがメンバーをひとりの人間として認めてくれるからです。また余裕ができると自分のまわりの人がいかに自分を支えてくれたかに思い至ります。それにメンバーも話してみるといい人ばかりなので納得のいくまで居られます。」
- ◆「私は社会参加準備グループで事務のお仕事を体験させていただきました。職員の方に気さくに話かけていただいてリラックスして作業をすることができました。人と人との間で行う仕事も少し前向きに考えることができました。考えているだけでは分からない仕事のポジティブな側面が見えてきたように思います。」

センターニュース

CENTER NEWS

- 4月 東京都青少年総合対策部青少年課若年者対策係 内村光太郎氏ら数名が視察来訪。(19日)
「実践的ひきこもり講座」(斎藤環講師) 新年度第1回講座(21日)
「思春期講座」(藤堂宗継講師) 新年度第1回講座(22日)
- 5月 文京区児童青少年課青少年課に「クリニック絆」のPR記載等を要請する。(8日)
- 6月 「クリニック絆」相談員全体研修会(1日)
青少年健康センター法人年度総会 13年度事業・決算報告を承認。(26日)
- 7月 NHK国際放送局取材(24日)
国立精神・神経センター主催の自殺予防シンポジウムが都内で開催。当センター会長齋藤友紀雄は準備委員として参加。WHO派遣A.フライッシュマン女史の記念講演。続いて「自殺予防—若者の生きづらさを支援する」と題して、齋藤環当センター参与らが発題。(24日)
- 8月 家族宿泊セミナー(実践的ひきこもり対策講座、斎藤環講師指導)(10日～11日)
- 9月 「世界自殺予防の日」 2003年にWHO(世界保健機関)と国際自殺予防学会(IASP)が共同して定め、わが国では2007年には内閣府が制定した。日本自殺予防学会ではこれに合わせ毎年、学会総会を開催しているが、本年は秋田市で開催される。
第37回日本自殺予防学会総会 13日～15日大会テーマ「多様な自殺予防のあり方を模索する」
なお「クリニック絆」の相談員ら関係者数名が参加する。